

# 長崎地区の里山保全と 地域活性化を目指して

能登島長崎地区里山保全計画策定のための  
調査報告書

2010年3月

能登島自然の里ながさき  
北陸水生生物研究センター

## ごあいさつ

地方の過疎高齢、少子化は、私共長崎地区においても例外ではなく、山林は荒廃が進み耕作放棄地が目立っています。このままでは、今後、地区の里山の維持管理が出来なくなってくる。

昨年（平成 21 年度）に始まった先駆的里山支援事業は、地区の現状と将来を考えるきっかけとなりました。眠っている地域資源の発掘、地区の可能性、等々、数回のワークショップで青年から年配までいろいろ話し合う機会が得られました。また 40 年近く荒廃していた里道の一部を整備し、耕作放棄地も一部開墾、ビオトープを造成することが出来ました。

自然環境が年々悪化する今日、事業の趣旨である生物多様性の環境整備、人と自然が共生する地域づくり、町民の所得向上につなげる特産品づくりなど、楽しくいきいきと参加できるように進めていければと思っています。

この事業に当地区を選定、助成して頂いた石川県と七尾市、また調査と取りまとめをして頂いた北陸水生生物研究センター、地区の自然環境の助言を頂いた、いしかわビオトープ交流会、日本両生類研究会、その他賛同し協力を頂いた方々に、深く感謝申し上げます。

今後、人と自然が共生する地域づくりの拠点となるよう取り組んでいきたいと思ひます。

平成 22 年 3 月

能登島自然の里ながさき  
代表 室屋哲生

## この報告書について

本報告書は、1) 長崎地区の自然や歴史についての調査、2) 2009 年度に実施された里山保全活動および住民によるワークショップ、3) 里山再生のための基本計画、4) 長崎地区における里山再生の方向性を整理する上での参考事例について取りまとめたものです。

里山保全活動には、里山の生物多様性を守る課題と、それをにう基礎部分である集落の機能維持の課題が含まれます。この両方の課題一体として取り組むために資料を作成しました。また、里山再生は長崎地区の地域主体によって取り組まれる課題であることから、集落の状態の記録だけでなく、ワークショップへの参加などを通じて把握できた地域活動における意志決定の過程についても、できるだけ詳細に経緯を記録するように努めました。

作成にあたっては、北陸水生生物研究センターが調査の一部と取りまとめをさせていただきました。この間 19 回能登島に通いました。集落内の民宿にも宿泊させていただき、定置網でとれた長崎地区の魚を存分に堪能しました。また、秋祭りにもご招待いただき、地区でとれた素材を活かしたさまざまな料理をいただきました。また、ワークショップ後の懇親会では、蒸しがキや鱈汁、マグロの内臓の煮付け、鱈の内臓の塩から等、郷土料理をたくさんいただきました。そのいずれもが美味でありまた珍しいもので、地域振興のヒントがたくさん隠れていることを感じました。

こうした長崎地域のみなさまの暖かいご協力に感謝するとともに、この報告書が、能登島長崎地区の現在とその取り組みを将来に伝え、また将来において長崎地区がさらに発展する上で少しでも役に立つことを願っております。

平成 22 年 3 月

北陸水生生物研究センター  
代表 高橋 久

# 目 次

## 第1章 能登島長崎の自然

1. 能登島 1
2. 長崎地区の里山の現状 4

## 第2章 能登島長崎の歴史と生活

1. 歴史 19
2. 現在の長崎地区 25

## 第3章 長崎地区の取り組み

1. 里山再生・集落再生の取り組み 27
2. 住民の意見の取りまとめ・計画づくり 32
3. 交流の実践 38

## 第4章 能登島ながさき里山保全計画（案）

地域の概況 41

能登島自然の里ながさきの基本目標と長崎地区の将来像 42

基本方針 43

組織 43

正式ロゴタイプ 45

簡易ロゴタイプ 45

マスコットキャラクター 46

ホームページ 46

実施のための基本計画 47

プロジェクト計画 50